

# ライフサポート 中央東

第3号 2023.4.13 発行

香美市土山田町宝町2丁目15-6  
香美教育会館内  
☎ 08875-53-7001 Fax 0887-53-5911  
e-mail:chuoeast-lsc@titan.ocn.ne.jp

## 学習会へのお誘い

中央東ライフサポートセンターでは  
**偶数月の第2水曜日**  
**15:00~16:00頃**  
に学習会を開催しています。

毎回いろいろなテーマで話をしています。

<今までの講演内容>

- ・「今日からできる健康づくり」 中央東福祉保健所
- ・「経済見通しと資産運用」 四国労働金庫
- ・「幡多ライフサポートセンターの活動」 幡多LSC
- ・「終活」 香南市高齢者介護課
- ・「香美社協における生活困窮者支援」 香美市社協
- ・「物部川称由来考」 香美史談会 } 紙面後半に講演録
- ・「碁石茶」 南国史談会 } を載せています。

どなたでも参加できます。興味のある方はご連絡ください。別途ご案内を差し上げます。

また、こんな話を聞きたい、講師を紹介できるなどの情報もお寄せください。

連絡先：高知県労働者福祉協議会事務局  
☎ 088-824-3583  
FAX 088-875-4887  
E-mail: kochirf@shirt.ocn.ne.jp

## 役員紹介 2021~2023年度総会

会長	佐々木生男	南国市職員退職者会
副会長	入野将佳	高退連南国香土長
〃	公文勇雄	県職員退職者会
〃	竹村暢文	自治労退職者会
〃	後藤和昭	連合東地域協議会
〃	森澤真也	四国労金高知東部ブロック
〃	恒石雅彦	南国香美香南地区労福協
事務局長	—	—
事務局長次長	西森久幸	県職員退職者会
幹事	西一明	教職員友の会
〃	川田耕平	教職員友の会
〃	藤川光生	教職員友の会
〃	池本志津	教職員友の会
〃	西岡孝	J.P.退職者会
〃	清遠真介	NTT退職者会
〃	松岡和幸	県職員退職者会
〃	安岡章	香南市退職者会
〃	宇根由美	香南市退職者会
〃	時久晃	南国市職員退職者会
〃	西添智大	連合東地域協議会
〃	谷山砂男	連合東地域協議会
会計監査	小松恵子	教職員友の会
〃	岡崎のり子	教職員友の会

## 「何でも相談」 やっています!!

困ったり悩んだりしていませんか?

労働、不動産、税金、人権、福祉、健康  
など生活全般について相談をお受けし、  
専門の部署や専門家にお繋ぎします。  
(秘密厳守、ご安心ください。)

私たち役員が交代でお受けします。  
お気軽に相談ください。

【受付】 偶数月の13:00~15:00  
☎ 0887-53-7001 (香美教育会館)  
※直接お越し頂いても結構です。

<年間予定>

4月12日(水) }  
6月14日(水) } 13:00~15:00  
8月9日(水) }  
10月11日(水) }  
12月13日(水) }  
2月14日(水) }



## フードドライブのお願い

~「もったいない」を「ありがとう」へ~

みなさんのお家で眠っている食材を支援に回して  
いただけませんか? こうち食支援ネットでは、食材や生  
生活用品を、いつでも自由にご寄付いただける、フード  
ドライブボックスの設置をしています。

設置場所



こうち勤労センター  
高知市本町4丁目1-32  
ファミリーマート土佐山田談義所店  
香美市土佐山田町楠目512-5  
ファミリーマート高知大津店  
高知市大津字一円甲260-1

※期間限定で香美市役所にも設置しています。

お問合せ：こうち食支援ネット (088-824-3583)

# 2022年度 中央東ライフサポートセンター釣り大会

2022年10月9日（日）手結漁港にて、中央東ライフサポートセンター主催の「第2回 家族で楽しく五目釣り大会」を開催しました。

当日は雨も心配されましたが、釣りを始める頃には薄日が差して釣り日和に。釣人の皆さんは思い思いの場所に陣取り、家族や友達とともに賑やかに釣りを楽しみました。

【開会式】



全員集合!! 佐々木会長のご挨拶

【釣り実施中】



お孫さん達と参加された竹村副会長 トウゴロウイワシが爆釣れ

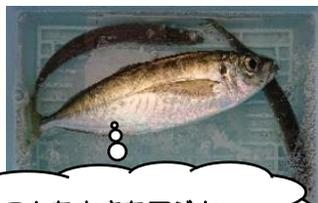
【大漁に釣ったイワシ】



【一番大物の高級魚マゴチ】



【一番長かったサヨリ】



こんな大きなアジも

赤岡町のスーパーA-MAXで買ったルアーが大活躍 マゴチをゲット

玉川さん連年の受賞 お見事!!

午前中の短時間でしたが、自然に囲まれリフレッシュ。釣果は、皆さんそれなりに?…いろいろな種類の魚が釣れました。全員が賞品を貰い、事故もなく無事終わることができました。釣果（マゴチ、サヨリ、エソ、トウゴロウイワシ、チヌ、アジ、カマス）

【表彰式後の集合写真】

釣った魚を「夜須海の駅クラブ」へお裾分けしました。子供達のバーベキューの食材になったそうです◎大変喜んで頂きました。

各賞受賞者

大漁賞	田淵 寧々さん	72匹
長いで賞	玉川 直弘さん	40cm
重いで賞	西森 久幸さん	525g
頑張ったで賞	頑張った皆さん全員	



今年の参加者は18名、昨年よりも多くの方に参加して頂きましたが、もっともっと仲間を増やしたいと思います。より多くの皆さまの参加をお待ちしています。

**初心者大歓迎、釣りを始めてみませんか!!**

(スポーツ・レク部会 記)

# 【学習会のご報告】 part 1

日時：12月14日（水）15：00～16：30

講師：香美史談会会長 高田俊祐氏（県職員退職者会）

演題：「物部川称由来考」～なぜ物部川と呼ばれているのか。その名の由来に迫る一考察～

四国山地を源に香美市を貫流、香南市・南国市を界り太平洋にそそぐ「物部川」、物部川とはいつ頃から呼ばれるようになったのか、なぜ物部川とされたのか。数多くの古い文献や資料を調査研究し川称の解明を試みた。平成30年「物部川称由来考」として冊子を作成した。



古代、物部川の流は今よりも西に分流し、河口部は潟湖や中州を伴う扇状地形をなしていた。古文書に出てくる物部村は、「ひまわり乳業」のあるあたりで、現南国市物部のことである。物部というと物部村（現香美市物部町）を思い浮かべると思うが、この物部村は昭和31年に槇山村と上葎生村が合併してできた村名で、その名称は地区内を流れる物部川から名付けられたもので古代の物部村とは関係ない。

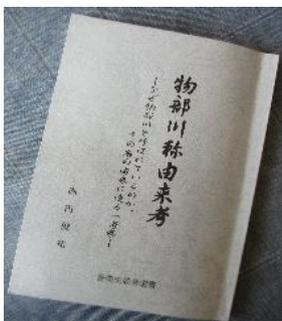
物部川は地域によって呼び名が違う。いわゆる地域（部分）称である。昔は、河口域では鏡川、大川、物部川、烏川、宇頭川（うずがわ）、八十氏川（やそうじがわ）、中流域の美良布あたりでは大川、上流域では呼び名の変遷があり、現在上葎生川（かみにろうがわ）はそのままで、槇山川（まきやまがわ）は物部川となっている。

物部川を鏡川と呼んでいたとの説がある。高知市を流れる「鏡川」は、昔は蛸橋から上流を雁切川、下流は潮江川と呼ばれていた。土佐五代藩主山内豊房公が、「我が影を映すこと鏡の如し」と歌を詠んだことから「潮江川」が鏡川になったと云われている。この鏡川の名称を受けて、香美の物部川で夢野の鏡岩から生じたとされる地域称の鏡川は、殿さまに忝度して鏡川と呼べなくなった。元々土佐の国の藩祖山内一豊公は、土佐転封の際、甲浦へ着船、行列一行は物部川を渡っており、同川を知っていた。

江戸時代、幕府は各藩に対し地図と石高を定期的に出せと命令を下した。昔の地図は、道として利用する役割と軍事的な役割があり、その川は舟で渡らないといけなとか歩いて渡れるかなどが書かれている。天保の「土佐国絵図」には、物部川と明記され上流域の上葎生川と槇山川は、「窪川」と「別役川」とにそれぞれ表記されている。この中に、「ものい川舟渡り」と小書きがありこれは物部川のことと思われる。

古文書によれば、物部氏（もののべし）は、もともとと霊魂、精霊に仕え呪術を担う氏族だったとされ、大和朝廷の時代には大伴氏と並び朝廷を支えた氏族で武力（軍事・警察）の中核をなしていた。古墳時代には、物部氏と蘇我氏が二大勢力となり大和朝廷を支えライバル関係にあった。神道を重んじる物部氏と仏教を崇める蘇我氏の対立が皇位継承をめぐる争い（丁未の乱）に発展し蘇我氏が勝利した。物部氏の勢力は迫害から逃れるため全国に散らばり、その一部は当時土佐にいた勢力と合流し土着定住した。蘇我氏の権力は天皇家を上回るほど強くなり、その専横に反発した中大兄皇子（なかのおうえのおうじ）と中臣鎌足（なかとみのかまたり）が蘇我氏を滅ぼした。その後、皇位継承を巡り争った仁申の乱のときに物部氏は復活した。

万葉集には、和銅元年（708）元明天皇の御製歌「大夫之 鞞乃音 為奈利 物部乃 大臣 豎 立良思母」（ますらおの とものおと すなり もののふの おほまえつきみ たて たつらしも）と詠まれたものがある。もののふとは物部氏のこと、軍事訓練に励む物部氏の姿から強大な武力を見て取った。元明天皇は、藤原京から平城京へ遷都する際に、臣下の一人である藤原不比等の意見を取り入れ物部連麻呂（もののべのむらじ）を失脚に追い込み力を削いだ。こうして物部氏を遠ざけたものの、物部氏及び一族（地方勢力）に対し重視、配慮する姿勢を見せバランスをとった。



土佐国群書類従巻には、和銅7年（714）土佐の国の物部毛虫咩（もののべけむしめ）が三つ子を生み褒美を貰った。弘仁元年（810）には土佐国香美郡の物部文連全敷女（もののべのふみのむらじまたしきめ）が少初位上に叙せられたとある。このことは、中央政府（天皇家）と土佐物部氏の繋がりを示すものである。

なぜ元明天皇は土佐物部氏を重視したのか。天皇は親しいものを旌表（人の善行をほめて、広く世間に示すこと）している。物部毛虫咩の多産、物部文連全敷女への叙位は、物部氏に対する政治的配慮であろう。土佐を大事にしないとイケないと。やっと朝廷が目を向けてくれたということで土佐の物部氏は喜んだ。

こうしたことを契機に、領域を流れる大河に「物部」を冠して、その名を未来に刻もうとする土佐物部氏の強い意志が働いたものと推測する。

物部川のように古代氏族の名前を冠した一級河川は全国に見あたらない。ロマンある川を大切に守っていこう。

**結論「物部川称は、平城京初期、和銅7年（714）元明天皇の物部毛虫咩多産に対する旌表を契機に土佐国物部氏により名づけられた。」**

## 【学習会のご報告】 part2

日時：2月8日（水）15：00～16：30

講師：南国史談会会長 濱田真尚氏（県職員退職者会）

演題：「碁石茶」

なぜ碁石茶を取り上げたか。碁石茶が国指定の重要無形民俗文化財の候補になっており、明日大豊町で調査委員会が開かれる。その委員の一人になっている。

碁石茶は、大豊あたりを中心に作られるお茶で、江戸時代から作られていた。消費地は、土佐ではなく讃岐を中心とする瀬戸内。このため、高知には馴染みのないお茶だった。



緑茶や煎茶と碁石茶の一番の違いは、茶葉を発酵させるところ。

お茶の種類は、不発酵茶、半発酵茶、発酵茶に分かれる。煎茶や番茶のように茶葉を発酵させず煎じて飲むのが不発酵茶、茶葉を完全発酵させたのが紅茶、発酵を半分くらいで止めたのがウーロン茶。茶葉は同じでもどんなお茶を作るかは自由自在、それぞれ特徴があり消費者のニーズに応じて発達してきた。

発酵茶の原型は、東南アジア山間部にあるようで、そこから日本にもたらされた技術ではないかといわれている。日本国内で発酵の技術を使ったお茶は、四国に三つだけ。愛媛の黒茶（石鎚黒茶）、徳島の阿波番茶、そして高知の碁石茶、この三つが発酵茶の部類に入る。発酵茶が日本全国でも四国だけに残ったというのは奇跡的、黒茶と阿波晩茶は国の重要無形民俗文化財に指定された。

愛媛県の黒茶は、蒸した茶葉をある山に持って行き菌を付けた後、樽に漬け込み発酵させる。阿波番茶は2段階発酵させない。

碁石茶は、かつて西日本を中心に作られていようだが、小笠原正春さん（故人）一軒だけが作り続けてきた。室（むろ）という発酵させる場所に残っていた菌で作っているのが碁石茶ということになる。そこに菌が残ってなければ、今に残っていなかった。全国に誇れる発酵茶の発祥の地ということ。

碁石茶は、酸味が強く青臭いが、この味わいが好きなファンがたくさんいる。その昔、小笠原さん一人が作っていた時には、青森県から九州までファンがいて毎年手紙で注文があったそうで「今年はこれだけしか作れなかったからこれだけ」と送っていたそう。こうまでして残してきたお茶。昭和60年代に健康茶ブームがあり、現在は小笠原さんの技術を受け継いだ生産組合が商品化し、碁石茶として市販されている。

お茶の製造方法は、新芽を摘み、蒸して揉んで乾かすというイメージがあると思うが、碁石茶は全く違う。①【刈り取り】3年くらい伸びた茶葉を硬い枝ごと刈り取る。②【蒸す】大きな蒸し桶に枝ごと入れて蒸し、蒸し上がったものは不要な枝とかゴミを取り除く。③【寝かす】室（むろ）に蒸した茶葉を置き筵（むしろ）をかぶせ何日間か置くと特定の菌が付く。途中で発酵し過ぎないように足で踏み発酵を止める。④【漬ける】樽に発酵した茶葉と蒸した時の煮汁を入れ、重石をのせて漬け込む。⑤【切る】漬け込んだ茶葉の塊を長い包丁で切り取り、小さいブロックにして再び樽に漬け込む。⑥【乾かす】漬け上がったものを網に置き天日で干す。数日間完全に乾燥するまで干す。こうして出来たものは、更に1年間寝かせて翌年やっと製品になる。このように非常に手間がかかる。

高知県で歴史資料にお茶がでてくるのは戦国時代の長宗我部地検帳で、東豊永地区に茶有（ちゃあり）という記載が見られる。この地でお茶が作られていたことが分かる。ただ碁石茶とは書いていない。碁石茶と書かれた一番古いものは、1746年の土陽淵岳誌という高知県の産物を書いた本に碁子茶という記述があり、これが碁石茶のことと思われる。この頃碁石茶の技術が確立され、豊永で作られていたということが分かっている。

江戸時代の終わり頃、豊永郷の碁石茶の他に、葦生郷に大貫茶、津野山郷に六蔵茶というのがあり、藩にも献上される良いお茶だった。ただ、碁石茶という塊になったお茶は、豊永郷、高知県北部だけだった。江戸時代の文献にはこういうお茶が出てくるので、庶民もお茶を飲んでいただと思う。大豊町寺内の釣井家文書には、庄屋が仁尾の商人と生産者の仲立ちをしたという文書が残っている。

※仁尾：現香川県三豊市仁尾町のこと。天然の良港があり、かつて交易により物資豊富な港町として栄えた。



碁石茶が瀬戸内で広まったのは、保存がきくから。船に置いておくお茶として船乗りの間で大人気だった。また、瀬戸内の島々には茶粥を食べる風習があり、茶粥を作るのに碁石茶が最適だった。ただ、碁石茶という名前ではなく、かたまり茶とか仁尾茶として売られていた。重要な仁尾商人の商品だった。仁尾町史には、かたまり茶という記述が必ずでてくる。

お茶が山を越えて瀬戸内側で広まった。高知では飲まれていなかったが瀬戸内ではごく普通に碁石茶を飲んでいただ分かる。

### 碁石茶は、高知県が全国に誇れる発酵茶

高知にこんなお茶があることを知って買いたいし、飲んで楽しんで買えればと思う。